

平成30年度 アドバイザー派遣事業 鳥取県学校保健会養護教諭部会報告

テーマ	保健室から発信する健康教育を考える
期 日	平成30年11月13日(火)
場 所	鳥取県立倉吉未来中心
講 師	佛教大学教育学部教授 原 清治氏
参加者	県内養護教諭・養護助教諭 213名



研修の概要

【講演】「ネット依存する子どもたちの実態と養護教諭の役割」

①ネット依存する子ども達の実態

- ・ネットゲーム「荒野行動の流行」→現実の人間関係への影響（友達が信じられない）
- ・「Tik.Tokでの動画作成、投稿」→無防備に個人情報をも不特定多数に発信
⇒大変危険な状態

②ネット社会と子ども達の変化

- ・大学食堂の「ぼっち席」
- ・体育の時間でも「マスク」を外さない子、中高生のマスクの流行
⇒安心感、他者と自分との間に壁を作ることによる「自己防衛」、他者とのコミュニケーションを取ることが苦手

③ネットといじめ

- ・悪いとわかっているにもかかわらず集団への同調圧力によりいじめを行ってしまう。
- ・つながり過剰症候群に陥っている子ども達
- ・学力差によってもネットいじめの発生率に違いがある。
- ・いじめられやすい子ども達の居場所

④養護教諭の役割と支援の方向性

- ・デジタル・ネイティブ世代とは価値観の相違があることを理解した上で対応する。
- ・悩みや困り感がある子ども達は自ら求めて保健室に来ないことも多い。
⇒養護教諭はアンテナを高くし、こちら側からの声かけや関わりも大切
- ・つながり過剰症候群の子ども達、あるいはそれらに属さない子ども達等の心を理解しながらの対応が求められる。

成果と今後の課題

現代の子ども達の健康課題の一つでもあるネットに依存する子ども達の実態を、様々な研究や多大なデータに基づいて詳しく学ぶことができた。また、養護教諭として、学校現場における様々な立場の子ども達の居場所や対応の仕方について学ぶことができ、普段の養護教諭としての子どもたちへの対応を振り返る機会ともなった。常にアンテナを高くし、目の前の子ども達の心を理解しながら対応していきたい。

そして、今回の研修を生かし、養護教諭としての専門性や実践力を更に深め、学校保健の推進のみならず学校全体の取組となるよう努めていきたい。